

ベーシック

# 心理学

第2版

編著 二宮克美

著 山田ゆかり

讓 西賢

山本ちか

高橋 彩

杉山佳菜子

BASIC PSYCHOLOGY

## 1

## 知覚

## この章のねらい

私たちは、見たり、聞いたり、感じたりすることによって、生活している環境を知り、それに応じて行動したり、行動を調整したりしている。人の行動を理解するためには、人が環境をどう知覚しているのかについて基礎的な知識をもっていることが大切である。

この章では、次の3つの目標の理解をねらいとしている。

- 1 知覚はどのように成立しているのかを知る。
- 2 知覚にはどんな特徴があるのかを学ぶ。
- 3 知覚に影響を与えている要因は何かを理解する。

## 1 知覚成立の基礎

## 1. 感覚器官

私たちは自分のまわりの物理的・客観的な環境を、さまざまな感覚器官をとおして知覚している(表 1-1)。視覚・聴覚・嗅覚・味覚などは、それぞれ眼・耳・鼻・舌で環境内の事物の特性をとらえている。また、これらのような外部環境だけでなく、身体の内側からの刺激を受けて、自己の身体の状態を知覚している。平衡感覚・運動感覚・有機感覚などがそれである。

これらの感覚の性能にはかなりの差がみられるものの、知覚の成立の基本的特性は同じであり、図 1-1 のように知覚成立の経路が存在する。環境内の物理エネルギー(光・音波など)が感覚器官に作用し、それが物理的な電気信号に置き換えられ、神経線維を通り大脳皮質の特定領域に達して特定の感覚が生じる。この感覚入力が脳中枢で判断される心理的過程が知覚である。

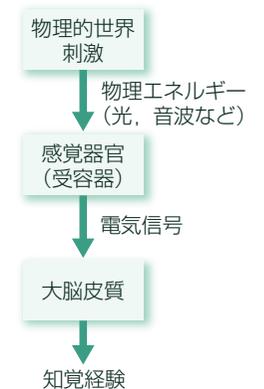


図 1-1 知覚成立の経路



図 1-5 ルビンの顔と盃 (Rubin, 1921<sup>15)</sup>)



図 1-6 少女と老婆 (Boring, 1930<sup>2)</sup>)

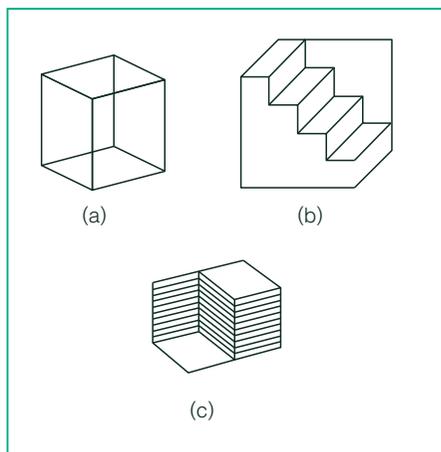


図 1-7 ネッカーの正方体 (a)  
シュレーダーの階段 (b)  
エムズマンのプリズム (c)

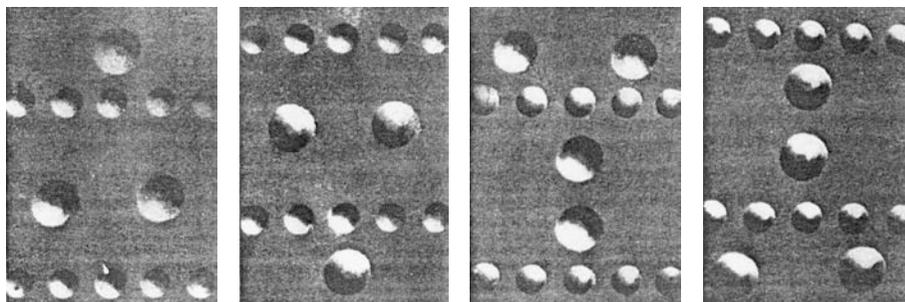


図 1-8 凸面と凹面の反転 (Fieandt, 1938<sup>4)</sup>)

図 1-5 は、ルビンの顔と盃という有名な図地反転図形である。白い盃が図となったり、黒い横顔が図となったりする。両方が同時に見えることはなく、一方が図となれば、もう一方はその背景になって見ることはできない。

図 1-6 も有名な図地反転図形である。若い娘が見えたり、老婆が見えたりするが、同時に 2 人を見ることはできない。図 1-7 には、幾何学図形の図地反転図形を示してある。図 1-8 は、凹凸面の反転図形を示した。図を上下ひっくり返すと凹凸が反転する。

**脱感作**

不適切な不安・恐怖に対する行動療法の一技法。p.159を参照。

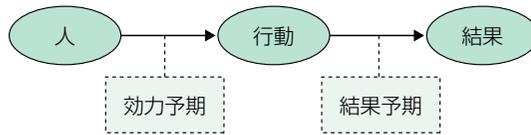


図 3-8 自己効力と行動のしくみ (Bandura, 1977<sup>2)</sup>)

**バイオフィードバック**

個人の単独あるいは複数の生理反応に関する情報を視覚、聴覚、触覚など知覚可能な刺激に変換して本人に提示することによって精神生理的状态の自己調節を促進しようとする手続きのこと。

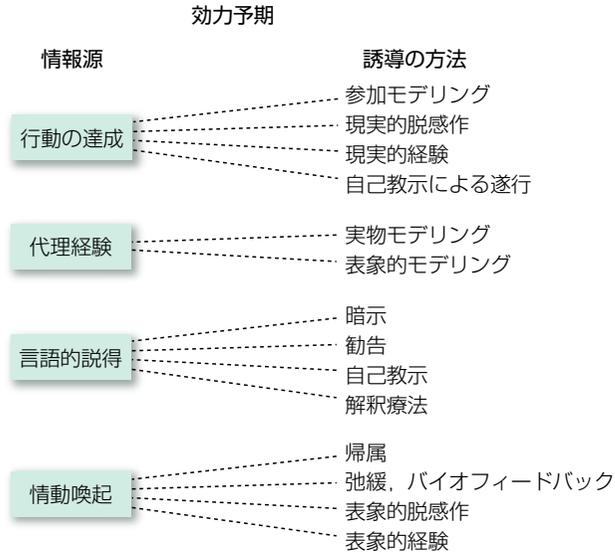
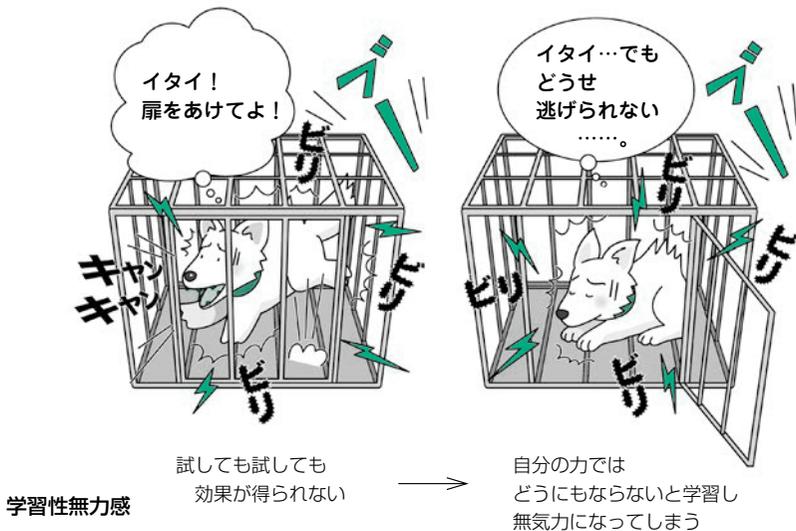


図 3-9 自己効力を高める 4 つの源 (Bandura, 1977<sup>2)</sup>)

と言語的説得という働きかけである。4つ目は、生理的な状態の体験、情動喚起である。困難な場面でも意外に冷静な自分でいられることに気づけば自信がつく。

**4. 学習性無力感**

セリグマンらは、避けることができない電気ショックを与え続けられたイヌが無気力状態になることを発見した。イヌをハンモックに固定して、電気ショックを何



## 心理学ミニ実験

### 「4枚カード」問題

**目的** 演繹推論における意味内容の効果を検討する。

**方法** 実験参加者に次の2つの「4枚カード」問題を提示し、選んだカードとその正誤を記録する。

**問題1** 「片方が母音ならその裏は偶数でなければならない」という規則が正しいかどうかを確かめるためには、少なくともどのカードを裏返す必要があるか。



**問題2** 「もしビールを飲んでいるならば、その人は20歳以上でなければならない」という規則が正しいかどうかを確かめるためには、少なくともどのカードを裏返す必要があるか。



**結果** (1) 問題1において確証バイアスがみられたかどうかを確認する (p.87 参照)。

(2) 問題1と問題2のどちらが正答率が高かったか比較する。

**解説** 問題1と問題2は全く同じ論理的規則であるが、正答率は問題2において高くなる。問題2の正答は、「ビール」と「16」である。問題2では「飲酒を許可するかどうか」という規則を用いて問題を解こうとする。そのため「飲酒の前提条件が守られていない状況」を探し出そうとして「16」のカードを選択する。問題1のように単なる数字と英字では、「許可するかどうか」といった規則は活性化されず、「7」のカードを選択する必要性を感じない。人は必ずしも論理規則だけで演繹問題を解くわけではない。正しく推論されるかどうかは、問題の意味内容によって影響を受ける。